今週の一枚：花咲く神社の境内に独り立つ　　2024 年４月２日　長崎市・岩瀬道町

【境内には満開の桜、でも誰一人訪れる気配はなく、落ちた枝木も石段に散らばる　】

嘗て勤務していた会社のそばには小さい神社があった。
花の便りに、今年はなぜかここを懐かしく思い出だされ、訪ねてみた。
実に 30 余年ぶりであった。
　神社は、長崎特有の坂に面した住宅密集地を抜け、その急な石段の頂上にひっそりと建つ。
境内には古い桜の木あり、季節になると見事な花を咲かせていた。
当時は、職場単位での花見が盛んな時代であり、わが課の花見はいつもここだった。
勤務終了定時の 5 時になると、準備万端整えられた酒、ビール、乾きもの、おでんの類を抱え、課員一斉に
石段の頂上を目指した。
狭い境内の敷地にゴザを広げ、酒を酌み交わし、思い思いの話しに笑いが飛び交かった。
見下ろせば、長崎港に大小の船が汽笛を鳴らしながら行きかう。
対面の丘陵の住宅地にも灯かりが灯り始め、夜のとばりが包み始める。
境内には照明はなく、これが宴の終わりの頃合いであり、締めの「乾杯」の声を響かせる。

今日、この境内に独り立ち、去来するは、あの仲間たちの笑い顔・・・・・